

山元・大條家茶室由来探る

仙台で講演会 80人参加

仙台藩に仕えた大條家ゆかりの建築物で、山元町坂元地区にある町指定文化財の茶室をテーマにした講演会や茶席が11月29日、仙台市青葉区のせんだいメディアアテークであった。

石州清水流 お点前披露

大條家20世で仙台藩志会のどについて講演。大條家当主伊達宗行会長が茶室の由来などが江戸時代末期に藩主から賜



ったとされる茶室は、豊臣秀吉にゆかりがあるとの説を紹介した。

伊達会長は「茶室には仙台藩で文化的に活動する人たちの出入りがあったと思われ、おのずと当時のカルチャーセンターになった」と述べた。講演会には約80人が参加。

終了後には、仙台藩お家流で大條家と関わりの深い石州清水流による茶席も開かれ、来場者にお点前を披露した。

講演は日本建築家協会東北支部宮城地域会によるイベント「アーキテクツウィーク」の一環。茶室の価値を見直すようと活動する町民グループ「ゆかりの茶室に光をあてるつちやGO 山元いっぺ茶組」が共催した。

いっぺ茶組発起人の早坂文明さん(68)は「山元町に貴重な茶室があることを町外の人に知ってもらいきっかけになつてほしい」と語った。

石州清水流の茶席に参加する来場者